

Sakura-ya Presents

さくら家  
発

# 実業家・渋沢栄一

●二〇二一年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公・渋沢栄一は、幕末期から昭和初期までの長きにわたる活躍から「日本資本主義の父」と呼ばれた実業家で、二〇二四年には新一万円札の「顔」となる人物です。埼玉県深谷に生まれ、現在の江東区に住んでいた明治初期から実業家として事業を手掛け始めます。渋沢栄一は気になるけど、生誕の地・深谷まではちょっと遠いなあ…という方！江東区のゲストハウス「さくら家」を拠点にして『渋沢栄一スポット』を巡り、足跡をたどってみませんか。

# 足跡めぐり



【案内人】

ゲストハウス TK Court Ojima さくら家

江東区ご案内

vol. 1

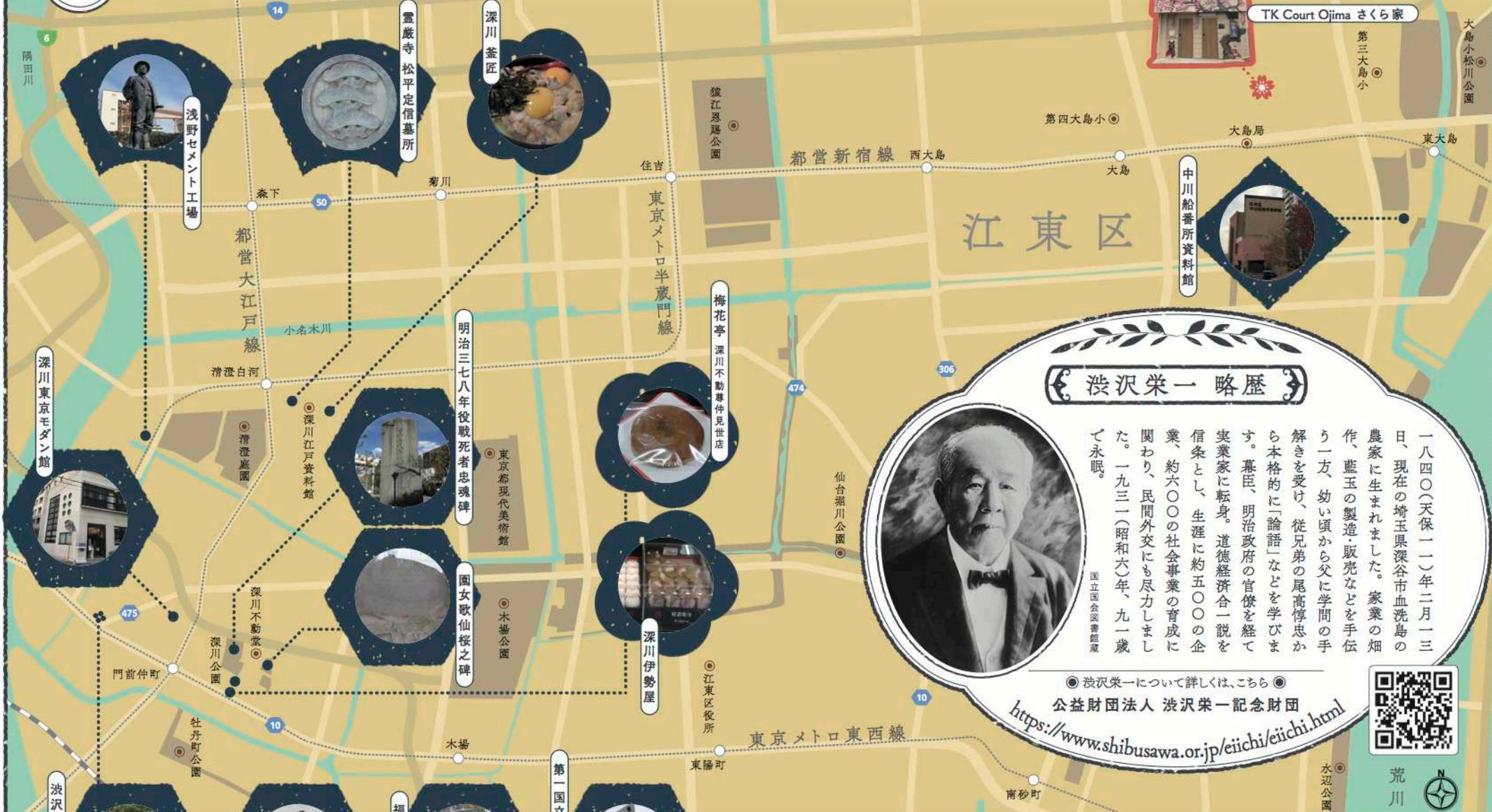
さくら家  
発

# 実業家・渋沢栄一 足跡めぐり



ゲストハウス  
「TK Court Ojima さくら家」  
(略称: さくら家)  
江東区大島にある一軒家を  
まるごと貸しきりできるゲストハウスです。

TK Court Ojima さくら家



## 渋沢栄一 略歴



一八四〇(天保一一)年二月三日、現在の埼玉県深谷市血洗島の農家に生まれました。家業の畑作、藍玉の製造・販売などを手伝う一方、幼い頃から父に学問の手解きを受け、従兄弟の尾高惇忠から本格的に「論語」などを学びます。幕臣、明治政府の官僚を経て実業家に転身。道徳経済合一説を信条とし、生涯に約五〇〇の企業、約六〇〇の社会事業の育成に関わり、民間外交にも尽力しました。一九三一(昭和六年)、九一歳で永眠。

● 渋沢栄一について詳しくは、こちら  
公益財団法人 渋沢栄一記念財団  
<https://www.shibusawa.or.jp/eiichi/eiichi.html>



special thanks 龍澤潤  
取材・記事 ● 小畑智恵  
デザイン ● 鈴木朋子  
2021年2月制作

この冊子は、ゲストハウス「さくら家」に関心を持ってくださった方に、地元・江東区の素敵なスポットをご紹介します。旅の途中の隙間時間に、また、知らなかった地域の良さを知るツールとしてご活用いただければ嬉しいです。

## 渋沢栄一宅跡

●永代2-37  
 東京都大江戸線 門前仲町駅から徒歩5分

渋沢栄一は、明治6年(1873)に大蔵省を辞した後は一民間経済人として活動し、明治9年(1876)から21年までの12年間、深川福住町に住みました。その宅跡にはいま、14階建のテナントオフィスビル「澁澤シティプレイス 永代」が建っています。兜町に自宅を移した翌年の明治22年から15年間、深川区議会議員を務めるなど、この地との縁は長く続きました。



住んでいた頃は「福住」だった住所が  
 いまは「永代」に  
 変わっているのだ



「澁澤シティプレイス 永代」の西側に流れる大島川西支川。倉庫部が操業していた頃は、こうした川が物流を助けていました

## 門前仲町エリア



「澁澤倉庫発祥の地」の碑と  
 渋沢の記章



## 澁澤倉庫部

●永代2-37  
 (渋沢栄一宅跡 同敷地内)

澁澤シティプレイス 永代のビル内にある「澁澤倉庫株式会社」は、渋沢が育成した企業の中で唯一「澁澤」の名を掲げています。日本初の銀行である第一国立銀行の設立に関わった渋沢は、銀行に不可欠な担保を安全に守るため、倉庫業の重要性を唱えていました。江戸時代に米問屋だった自邸の蔵を使い、明治30年に私邸に澁澤倉庫部を創業し、長男篤二を倉庫部部长としました。その後、国内外に支店や物流拠点を拡大し、今に続いています。

藍玉(染料)の製造、販売を家業としていた生家は、商いの時に、この☒(ちぎり)の記章を使っていました

## 「青洲澁澤栄一」の像

●永代2-37  
 (渋沢栄一宅跡 同敷地内)



澁澤シティプレイス 永代の1階エントランスには、今に続く家業を見守るかのように渋沢の胸像がひっそりと設置されています。ビル内の企業に関連のある方以外は入ることはできませんが、ガラス越しに伺うことはできます。なお、名前に添えられている「青洲」は、生家近くに洲があったことにちなんだ渋沢の雅号です。

自由に見学できる渋沢の銅像は、生家がある埼玉県深谷市の深谷駅前の青洲広場(西島町3-7)、日本銀行にほど近い千代田区の常盤橋公園(大手町2-7)、東京養育院ゆかりの板橋区の東京都健康長寿医療センター公園(栄町35)などにあります。

●永代2-36-16  
 東京都大江戸線 門前仲町駅から徒歩5分

近代国家の基礎は経済にあると考えた渋沢が大蔵省出仕時に立案・制定した「国立銀行条例」に基づき、第一国立銀行は明治6年(1873)に日本初の銀行として開業しました。日本経済を一民間として支えるため大蔵省を辞した渋沢は、第一国立銀行の総監査役(その後、頭取)として約40年にわたり、近代日本を形作る根幹として銀行を育成し、様々な企業の誕生・発展に尽力しました。深川の渋沢宅そばにあった深川支店は現在、みずほ銀行深川支店となっています。

## 第一国立銀行深川支店跡



福住稲荷神社

●永代2-37  
(渋沢栄一宅跡 北側)

渋沢が住居を構えていた頃、屋敷神として敷地内に祀っていた神社。現在は、一般の方も午前7時～午後5時の開門時間内にお参りすることができます。お社に掛けられている立て札の「福住稲荷神社」の文字は、渋沢が揮ごうしたもの。参道もお社回りも綺麗に整えられており、今も大切に祀られていることが分かります。

お社近くにある10個の力石は、倉庫業を営んでいた頃、運役についていた力自慢の男達が持ち上げたものとか。力持ちの名前や渋沢の記章などが刻まれた石はお社を守っているようにも見えます。



参りにこんこん



●富岡1-16 (深川不動堂の東側にある深川公園内)  
東京都大江戸線 門前仲町駅から徒歩3分

深川公園内奥に碑は建立されています。深川公園は、江戸時代に永代寺庭園だった場所です。

芭蕉の弟子だった江戸中期の俳人渡会園女(享保11年没)が富岡八幡宮の境内に三十六歌仙にちなんで桜樹36株を植えた故事になり、昭和6年(1931)に改めて36種類の桜を植え、石碑が建てられました。「園女歌仙桜之碑」の題字を揮ごうしたのが渋沢です。この年の11月11日に没しているため、最晩年の書となります。

園女歌仙桜之碑



字を書くのは  
趣味のひとつ  
求められれば、  
すすっと一筆  
書いたもんだ



●富岡1-16 (深川不動堂の西側にある深川公園内)  
東京都大江戸線 門前仲町駅から徒歩3分

深川公園中央広場のグラウンド傍に建っているのは、明治37、38年にあった日露戦争戦死者の忠魂碑です。大きな一枚岩の石碑は当時の深川区の有志によって建てられたもので、題字を渋沢栄一が書いており、題字の左脇には「正四位勲三等男爵澁澤栄一謹書」の文字があります。碑の裏側には、深川区出身で戦死した兵士の名前が刻まれています。

明治三七八年役戦死者忠魂碑



浅野セメント工場

史跡「セメント工業発祥の地」

清澄エリア

●清澄1-2-23  
 〓清澄白河駅から徒歩8分

日本初のセメント工場は明治5年頃(1872)、深川清澄町(現・清澄)にあった仙台藩屋敷跡に政府がつくった官営工場から始まります。原料の粘土は隅田川、仙台堀、油堀などの工場の側を流れる川や掘割から採集して用いられました。明治17年(1884)、民営工場払い下げの最初の一つとして工場を引き渡された浅野総一郎(写真上の銅像)は浅野工場を創立。その後、合資会社へと事業を拡大しました。

渋沢は、浅野が大船の時代が来ることを予知して大型船建造の造船所を横浜で興した様子などを見て、「浅野氏は先見の明があって見積の巧者な人である」(渋沢栄一記念財団「実験論語処世談」より)と、その才覚を認めていました。渋沢が後盾となったことで浅野はセメント工場の払い下げを受け、新事業をスタートすることができました。

四角いコンクリートブロック(江東区登録文化財)は明治27年に製造され、「あさの製 No.2727」とシリアルナンバーの刻印があります。横浜港築港工事でその防波堤用として海中に沈設されたものです。昭和6(1931)年、同港改築の際に引き上げられましたが大きな損傷はなく、優れたコンクリートだということを証明しています

砂利を粉砕する石製のフレットミル粉砕機ローラー

どこにも「浅沢」の文字はないが^^; 浅野を後押ししたのは私です



銅像下に添えられたプレートにある署名の「浅野総一郎」、実は二代目だとか^^; 扇は、浅野がトレードマークとして用いていたそうです



三階松だよ



入り口近くにある銅造地藏菩薩坐像は「江戸六地藏」の一つで、東京都指定有形文化財(彫刻)です

●白河1-3-32  
 〓清澄白河駅から徒歩1分

霊巖寺 松平定信墓所

国指定史跡

霊巖寺は浄土宗の寺院で、奥に11代將軍徳川家斉のもとで老中首座として寛政の改革を行った松平定信の墓があります。定信(号・楽翁)が制度を作った七分積金(江戸町会所共有金の非常時用の積立金)は明治政府に引き継がれ、その共有金を元に東京会議所は明治9年(1876)に東京府瓦斯局を設立し、東京会議所会頭の渋沢が事務長(後に社長)となりました。

また、東京市内の生活困窮者などを保護する目的で明治5年(1872)に創立された東京養育院も、この資金を元に設立され、同9年から事務長、同12年から亡くなるまで院長を務めた渋沢は定信に大変恩義を感じていました。政治に取り組む姿勢なども含めて大変尊敬し、その遺徳の顕彰に努め、定信の伝記「楽翁公伝」の作成にも取り組みました。

お寺の入り口が開いていれば、いつでもお参りできますが、墓所の周囲には柵が設けられています。拝観時間は9:00 ~ 17:00、拝観は無料です。



深川伊勢屋 本店



深川不動尊の山門脇にある広い店頭には、国産もち米や上新粉にこだわっただんごにおはぎ、大福、せんべい、手土産にしたいなるのり巻きやおいなりなどがズラリと並び、目に鮮やかな和菓子が季節を楽しませてくれます。本店は2階に中華料理を中心としたメニュー豊富な食事処もあるので、お参りの前に、後に、立ち寄ってみては。

住所 ☆ 富岡1-8-12 門前仲町駅1番出口を出てすぐ  
TEL ☆ 03-3641-0695  
営業時間 ☆ 8:30～20:00  
お食事処 ☆ 11:00～20:00 (ラストオーダー19:30)  
定休日 ☆ 月曜



梅花亭 深川不動尊仲見世店



嘉永3年に大伝馬町で創業した菓子店「梅花亭」は、創業者が新しもの好きにして無類の甘いもの好きで、数々の創作的なお菓子を生み出したそう。趣のある入り口や引き戸も長い歴史を感じさせて素敵。ふっくらした梅の形がかわいい「梅もなか」や、薄くて平らな「どら焼き」など、どれも美味しそうで目移りしてしまいます。

住所 ☆ 富岡1-13-10 門前仲町駅1番出口から1分  
TEL ☆ 03-3641-3528  
営業時間 ☆ 10:00～16:00  
定休日 ☆ 年中無休



深川釜匠



深川名物「深川めし(写真上)」は、あきをふんだんに使い、こだわりのだしでシメジと一緒にふくら炊き上げた逸品。特製のだしでざっくり切ったねぎと油揚げをあきりと煮込んで卵黄をのせたぶっかけ丼の「深川丼(写真右下)」も美味です。両方を小振りなサイズで楽しめて味噌汁、デザートも付く「深川セット」は満腹間違いナンです(^^)/

住所 ☆ 白河2-1-13 清澄白河駅から徒歩約2分  
TEL ☆ 03-3643-4053  
営業時間 ☆ 11:00-20:00  
定休日 ☆ 月曜(祝日の場合は営業)



深川東京モダン館



◎ 国登録有形文化財

昭和7年(1932)に東京市営の食堂として建築され、平成21年(2009)10月に江東区の観光と文化の拠点「深川東京モダン館」として開館しました。江東区文化観光ガイドのボランティアガイドが10時～16時に常駐(開館日・事情により不在時あり)しており、希望者がいれば11時、14時から1時間ほどの「まちあるきツアー」(行き先は応相談、無料)も開催しています。

住所 ☆ 門前仲町1-19-15 門前仲町駅から徒歩3分  
TEL ☆ 03-5639-1776  
開館日 ☆ 10:00-18:00(金・土曜日は19時まで)、無料  
休館日 ☆ 月曜日(月曜日が祝日の場合、翌火曜日が休館)  
※年末年始、展示替え等の臨時休館も



## 大島エリア

### 江東区中川船番所資料館

◎大島9-1-15  
■都営新宿線 大島駅から徒歩5分

2020年10月28日(水)から2021年5月9日(日)まで、「特別展 渋沢栄一と江東 実業家栄一 播磨(ハジマリ)の地」を開催しています。江東区は、偉業を成し遂げた渋沢が実業家としての大きな一歩を踏み出した地であり、ここから近代日本の礎を築いたということで、関連した様々な近代産業を紹介した展示です。2021年3月13日(土)には学芸員の方によるミュージアムトーク(要予約)も開かれ、録音された渋沢の肉声も聞くことができます。2021年度以降も、継続して渋沢関連の展示を行う予定とのことです。



## ティーケーコートオオジマ サクラヤ TK Court Ojima さくら家

閑静な住宅街にある3階建の一軒家をまるごと貸しきりできるゲストハウスで、2019年10月にオープンしました。1グループ最大19名まで、人数にかかわらず宿泊料金同一で宿泊できます。都営新宿線大島駅から徒歩8分、アーティスト・メルヘンさんが描いた和テイストの桜、ユニークな動物たちの絵が目印です。三世代家族や趣味のグループなどでのご利用も多いです。皆様のご利用をお待ちしております。

〒136-0072  
東京都江東区大島7-26-3  
TEL☎03-5858-6768  
営業時間☀24時間  
定休日☀不定休  
代表 佐藤智子



明るく清潔な  
落ち着いた  
お部屋です



<https://tk-sakuraya.com/>